

目的 現在の衣生活は、既製衣料が大部分を占めており、以前行った被服購入調査の結果にも見られた様に、被服類が手ごろな価格で簡単に入手できることから、安易に購入・活用・廃棄を繰り返しているように思われる。そこで、女子学生が日常どのような被服管理をしているか、その意識を探り、今後の被服学の検討に役立てていきたい。

方法 本学短期大学部家政科家政専攻の学生を対象に1993年10月・12月各々3日間を各自自由に設定し、計6日間に着用した服種と素材を記録させた。また、被服管理の意識と知識についてもアンケート調査し、それぞれの結果について考察した。

結果 日常着の服種は主として上衣はTシャツ・セーターを、下衣はパンツを多く利用し、スカートは少ない。また、スーツ・ワンピースの利用は僅少であった。素材は綿が主流で被服管理の意識については、「洗濯は自分でする」が40%で、「アイロンかけをよくする」・「衣服の汚れはすぐ処理する」は約90%の学生が「よくする」と答えている。また、「ボタンがとれた場合自分ですぐつける」・「すそがほつれた場合自分で直す」等の補修に関しては約90%の者が「よくする」と答えており、その実践的な意欲がみられる。これは日常着に取扱いやすいものを利用している結果と一致している。一方、「スカートたけやそでたけ等の簡単な衣服寸法は自分で直す」については「よくする」と答えた者が、20%と少なく、一つには基礎技術の欠落がみられた。